

古市博士授爵聯合祝賀會記事

一、祝賀會を開く迄

本會々長古市博士大正八年十二月を以て男爵授爵の恩典に浴せられたるにより九年一月十四日の本會役員會に於て博士授爵の祝賀會開催の議出て協議の結果工業に關する各學會に照會し賛同を得れば各學會より委員氏名宛を選出し選からざる中に委員會を開きて總べて取極むる事に決し尙工學會よりは副會長一名と主事一名併せて氏名を委員に依頼する事とし乃ち同月卅日附を以て工學會より左記各學會に向け此祝賀會を各會の聯合にて開催し度且つ同意ならば委員氏名宛を選出して其氏名をも報告あり度旨を申送りたり此照會を發したる各學會は左の如し

- 日本建築會 日本鐵道會 土木學會 火兵學會
炭礦冷礦會 造船會 建築學會 工業化學會
帝國鐵道會 電氣學會 電信電話會 機械學會
照明學會

工學會より此照會に接したる各學會に於ては孰れも直ちに賛同し委員を選出して工學會に報告したり各會委員氏名は左の如し

- 日本建築會 大江松太郎君
日本鐵道會 今泉源一 佐野利器君
土木學會 原田貞介君 生野剛六君
火兵學會 大内正雄君
炭礦冷礦會 加茂正雄君 北前重之君
造船會 寺野精一 藤島純平君

祝賀會委員長に推す事等を議定し、委員長に一任して此祝賀會事務の進捗を圖る爲め今夕會合の各會委員中より五名の準備委員を指名する事となり石黒委員長は即ち左の五君を準備委員に指名囑託したり

- 今泉嘉一郎君 加茂正雄君 佐野利器君
桂 辨三君 生野剛六君

尙石黒委員長は委員長として又寺野精一君は工學會理事として右準備委員五君と共に準備に努力する事となり直ちに同月三十一日工學會事務所にて右七君會合準備委員會を開催する事として午後七時協議を終り

三月三十一日(木)は午前十一時より石黒委員長寺野工學會理事並に準備委員五君工學會事務所に會合して準備委員會を開き會期を植物園の都合により廿四日(土曜)に改め、名稱を古市博士授爵聯合祝賀會と定め、事務所は便宜上工學會事務所内に置く事とし、次に各會々員への通知狀及古市博士に附るべき招待狀の文案等を作り、又祝賀會當日は各會より事務員一名宛を派して幹旋に當らしむる事、玄關受付にては會費と引換に徽章を手渡し各自の自筆を以て署名帖に署名を請ひ是は裝釘の上記念として古市博士に呈する事とし、又記念撮影を爲して是亦古市博士に呈する事等を議定し、尙當日のプログラムを左の如くする事に議定せり

- 一、開會之辭 委員長 工學博士 石黒五十二君
一、十四學會總代賀詞 工學博士 會田建藏君
一、祝 辭 事務局長 大島忠雄君 山川健次郎君
一、祝 辭 工學博士 寺野精一君
一、祝 辭 工學博士 田邊朝郎君
一、答 辭 工學博士 男爵 古市公威君

- 北農學會 塚本 新君 笠原 敏 郎君
工學會 石黒五十二君 佐野 利器君
工業化學會 原 居 武君 山村 銳 吉君
帝國鐵道會 大 塚 權 丞君 阿 田 竹 五 郎君
電氣學會 利根川 守三郎君 村 尾 榮 君
電信電話會 山 英 大 郎君 兒 島 牛 五 郎君
機械學會 根 岸 政 一君 岡 島 經 次 郎君
照明學會 新 証 古 生君 岡 城 正 水君

即ち三月廿三日(水)午後五時より帝國鐵道協會に聯合各會委員の出席を求めて祝賀に關する協議會を開く當夜の出席委員又は其代理者左の如し

- 日本建築會 桂 辨三君
日本鐵道會 今泉 源一 佐野 利器君
土木學會 原田 貞介君 生野 剛六君
炭礦冷礦會 加茂 正雄君
造船會 寺野 精一君 藤島 純平君
建築學會 松井 清 吳君 笠原 敏 郎君
工學會 石黒 五十二君 佐野 利器君
工業化學會 原 居 武君 山村 銳 吉君
帝國鐵道會 大 塚 權 丞君 阿 田 竹 五 郎君
電氣學會 利根川 守三郎君 村 尾 榮 君
電信電話會 山 英 大 郎君 兒 島 牛 五 郎君
機械學會 根 岸 政 一君

開會直ちに石黒五十二君を議長に推し協議の結果祝賀會發起人は學會となすこと會期は古市博士の病狀も四月十日後ならば外出も叶ふべきにより各學會の都合を斟酌して廿五日(日曜)頃とする事、場所は小石川植物園、會費は敢て食卓の宜しさを尊しとせず古市博士を知る限り多數人々の奉會を希望する趣旨にて先づ五圓位とする事、石黒五十二君と聯合祝

記念撮影

次に四月一日には準備委員會場植物園に赴きて實地を踏査し設備其他の事を決定し、二日午後五時よりは工學會事務所に各會の會員名簿を携行して參集祝賀會通知先の打合を爲す事として散會す

四月一日午後一寺野工學會理事及佐野、桂、加茂、生野(代岡村又逸君)の四準備委員小石川植物園内池畔會場豫定地に到り實地踏査を行ひ祝賀會料理を命じたる本郷の燕樂軒及天幕屋より人を招きて當日の設備料理等の事の打合せをなせり又來會者並に委員事務員の徽章を定む

四月二日午後五時各會より事務員一名宛工學會事務所に參集し石黒委員長佐野準備委員も列席の上各會々員名簿に於ける相互重複を照合削除し通知狀の二重送達を出來得るだけ避くる事に決し直ちに照合を行ひて發送すべき祝賀會通知狀の概數を算し宛名記載方等に差議を遂げて散會す

四月三日より十日迄は即ち祝賀會通知狀の發送事務を急ぎたり其通知狀は左の如し

拜啓工學博士古市公威君先般授爵の恩典に浴せられ候に就ては工業に關する各學會申合せの上聊か祝賀の意を表せん爲め聯合祝賀會開催御贊同の上御出席被下度此段御意候 敬具

- 一、場所 小石川植物園
一、日時 四月廿四日(土曜)午後一時
一、會費 金五圓 (當日御持參被下度)
追前準備の都合有之候間御出席の有無來る十五日迄に封入の葉書を以て御一報被下度候也

大正九年四月七日

東京市京橋區山崎町十五番地工學會内
古市博士授爵聯合祝賀會

- 日本鐵業會
- 日本鐵鋼聯合會
- 土木學會
- 火兵學會
- 房冷鐵協會
- 建築學會
- 工學會
- 帝國鐵道協會
- 電氣學會
- 電信電話學會
- 機械學會
- 照明學會

通知狀の總數は壹萬六千六百貳拾通にして其中東京市及接
近町村の分五千八百四十三通近縣の分壹千五百三十七通其他
の各府縣外國等の分は九千貳百四十一通を算したり
以上によつて祝賀會準備も略成りたれば即ち四月十三日附
を以て来る廿日(火)午後五時より各會委員一名宛工學會事務
所に參集を請ふて念祝賀會當日の高事を打合せ事とせり
四月廿日(火)午後より即ち各會より委員一名宛及其他の關
係有志工學會事務所に參集して祝賀會當日の諸事を議す當夜
の出席諸氏々名左の如し

- 日本鐵業會 桂 辨 三君
- 日本鐵鋼聯合會 今 泉 源 一 郎君
- 土木學會 佐野野大次郎(代村又義) 阪 川 貞 明君

- 房冷鐵協會 阪 川 貞 一君
- 造船協會 寺 野 精 一君
- 建築學會 大 熊 善 邦君
- 工學會 石 黑 五 十 二君 佐 野 利 器君
- 工業化學會 山 村 銳 吉君
- 帝國鐵道協會 大 阪 隆 丞君
- 電氣學會 利 根 川 守 三郎君
- 電信電話學會 兒 島 牛 五 郎君
- 機械學會 西 島 鐵 次 郎君 根 岸 政 一君
- 照明學會 岡 崎 正 本君

開會先づ古市博士と其家族とを招待する事を決して招待狀
の文彙を確定し招待狀は委員工學博士佐野利器君持參古市家
を訪問して古市博士に進ずる事とし當日は又委員長工學博士
石黑五十二君自働車を以て古市家に出迎へに赴く事等を決し
又山川濱尾兩男爵は特に當日の賓客として招待する事に決し
會編渡藏君起草の十四學會總代としての祝詞は日下部鳴鶴氏
方に於て推選を依頼する事と決し會編博士は直ちに退席して
日下部鳴鶴氏を訪ふて依頼ありたり工學會事務所に於ける協
議は尚續きて當日の記念寫眞の大小署名帖の紙當日の設備各
會委員の分担事務、五大新聞社へ招待狀發送等の事をも議定
して散會す當日の各會委員の分担事務は左の如く夫々決定依
附せり各會より派遣の事務員は便宜左記の各部に分屬して幹
旋奔走する事としたり

- 受付係 桂 辨三君 根岸政一君 利根川守三郎君
- 山村銳吉君
- 式場係 加茂正雄君
- 食事係 阪田貞明君
- 撮影係 大熊善邦君

會計係 村岡 堪君
總務係 佐野利器君
四月廿一日即ち山川濱尾兩男並に主賓古市博士への招待
狀出來に付夫々鄭重に送り届けたり古市博士への招待狀は左
の如し
謹啓 時下春暖之候益御禮祥泰賀候陳者閣下先般授爵の恩
典に浴せられ候に付工業に關する各學會申合せ祝賀を表せ
ん爲め来る四月二十四日小石川植物園に於て聯合祝賀會相
催し度候間御病後御迷惑とは存候へ共各學會之意志御汲取
り御家族御同伴同日午後二時同所へ御來臨を仰度此段得貴
意候敬具

大正九年四月

- 日本鐵業會
- 日本鐵鋼聯合會
- 土木學會
- 火兵學會
- 房冷鐵協會
- 建築學會
- 工學會
- 帝國鐵道協會
- 電氣學會
- 電信電話學會
- 機械學會
- 照明學會

工學博士男爵古市公威閣下

二、祝賀會

大正九年四月廿四日(土曜)念祝賀會當日とはなれり風情

寒けれどとも稀なる日本晴の好天氣なり、式場の裝飾池畔の設
備嚴整に而も質素を旨として整はれたるは此日の祝賀の趣旨
に相應せり各學會よりは午前より委員を派して準備をなし夫
々所定の部署に就けり、定刻に至れば古市男爵は夫人と共に
參會あり石黑委員長に迎へらる、

午後二時正式は開かれ滿場拍手の中に石黑委員長は起立し
て左の如き開會の辭を述べ

今則古市博士が授爵の光榮に浴せられし爲に、工學
工業に關係の十四學會、即ち之をイロハ順に申せば、日本
鐵業會、日本鐵鋼協會、土木學會、火兵學會、暖房冷鐵協
會、造船協會、建築學會、工學會、工業化學會、帝國鐵道
協會、電氣學會、電信電話學會、機械學會、並に照明學會
の各會が申し合せ、聯合して祝賀會を開く事になりました
ので、御病後御迷惑とは存じましたか、御出席を願へやう
かと尋ねました所、御快諾下され御出席に相成り、今日此
祝賀會を開く事が出来、而して私が茲に開會の辭を述べま
する事は私の殊に欣喜とする所なるのみならず且つ光榮と
する所でありませう。

抑も古市博士は明治二年に一ツ橋外の開成所に入られ、
(元と護持院の跡で護持院が原と稱し、今の東京商科大學の
在る所てあります)佛學を學ばれました、其開成所は夫よ
り大學南校となり、更に第一中學校となり、次で開成學校
となつたが、終りに之を本郷の今の東京大學の位置に移さ
れ、東京大學法理文三學部と稱せられ、今日の大學の元にな
つたのであります。博士は在學中明治三年十月藩の貢進生
となり、明治八年七月文部省から佛國留學を命せられてエ
コール・ナントラルに入り、十二年八月佛國農商務省から

「アンジニエール」の學位を受け、更に「ツアカルチー・ツ・シャンス・ツ・ニバルシチー・ツ・パリ」に入つて理學を修め、十三年七月同國文部省から「リナンシエール」の學位を受けられ、同年十月歸朝され、同年十二月内務省土木局長を拜命せられ、翌十四年准委任卸用掛となり、同十七年内務三等技師に任せられ、夫から漸次昇進して同廿三年六月土木局長に任せられましたが、同卅一年七月に辭任せられました。此内務省に在職中に、明治十九年五月から同卅一年十一月迄迄、更に同卅二年十月から同卅一年七月迄と前後通して十一年餘は又工科大学長をも兼任せられました。

工科大学は明治十九年文部省所管の東京大學と工部省所管の工部大學校とが合併致しまして東京帝國大學と改稱致しました。爾其一分科大學とし設立せられたるもので、當時從來の所管の關係上、此工科大学長に兼任せらるべき人の人選に對しては頗る棘めたのでありますが、終に古市博士の就職を見るに至つて幸に何等の障礙をも見ず、敬職員融和協力してよく圓滿なる發達を遂げ、工業教育の基礎を確立する事が出来たのは君の力に由る所が多いのであります。

又明治十三年君が土木局長へ就職せられてから其退職迄十八年間に、我國の土木事業並に土木行政の爲に盡された功績の一斑を申しましたれば、斯内務省に於て河川工事を始めましたのは明治七年五月越川の改修に着手したのを手始めと致し、夫れから段々各川の工事も起して明治十八年六月迄には十四大川の工事に着手致しましたが、其初に於ては是等の改修工事の設計は和蘭の「ヴァントーレン」氏など、云ふ凡て外國から僱聘して來た技師の手でやつたものでありましたが、君が職を土木局長に奉じてからと云ふものは、漸次之を、我國の技術者の手に收めるに至つたのであります。其時分又各府縣で水害復舊工事を施行するに際して、國庫補助として支出せられる金額が往々にして徒らに多額に上る弊がありました。此弊を除く爲に技術官をして水害復舊工事を検査させる事になつたのは是れ君が建議に基いたものであります。

明治廿一年十一月山縣内務大臣が歐洲巡回の途に上らるるに際して君は其隨行を命ぜられて歐洲諸國に於ける土木工事及其制度を視察して歸られ、其結果本邦土木行政の爲めに貢獻せられた所も尠くないのであります。

君の土木局長在職中には又重大なる土木上の問題が勃ちあつたが、就中震尾震災の復舊工事の如き、又横濱築港埠頭龜裂問題の如き、大阪築港の如き、其他各地水害復舊工事に關する件等、孰れも帝國議會の問題となつたのであります。君は其間常に政府委員として其の衝に當り努力された所尠くないのであります。君が其政府委員たりし事は内務省所管に於て八回、逕信省所管に於て四回、韓國統監府所管に於て一回、合計十三回政府委員として起られたのであります。

又本邦の治水事業の基礎確立に關係ある河川法の制定に關しても君の力與かつて尠からざるものがあるものであります。次で逕信次官、逕信省總務長官等を経て鐵道作業局長官、京釜鐵道總裁、韓國統監府鐵道管理理局長官等に任せられたが、其逕信省に在職中、明治卅三年には所謂北清事件があつて、軍事上に関する逕信事務に就いて君が畫策せ

られた所も亦尠くなかつたのであります。鐵道作業局長官から京釜鐵道總裁に轉せられたのは明治卅七年、帝國が露國と事を構へるに方つて京釜鐵道の速成は軍事上より國家の安危に重大なる關係を及ぼす事になりますので其主腦たる總裁其人を得るに却々困難致しましたが、常路の切なる勸誘によつて君は敢然意を決して此難局に當られたのであつて、其苦心は實に名狀す可からざるものがあつたのであります。君は此の所謂命懸の事業に於ても能く經營を練らし、君々効果を収めて軍事上に幾多の便益を與へられたのであります。即ち彼の卅七八年事件が我國に甚大なる戦害を與へた原因には此京釜鐵道の速成をも其の一に數へざるべからざる事と思ひます。

次で君は鐵道管理局長官に任ぜられて設後の朝鮮鐵道統一に關して亦非常な苦心を以て致力せられた事でありました。

以上主として君が在官中、本務に係るもの、功績の唯其の一斑に就いて述べたに止りますが、此他市區改正委員、土木會委員、港灣調査委員、鐵道會議員、教育會議員等として、又露事事件、鐵道國有、議院建築、廣軌鐵道等の諸問題に於ける委員として又第三乃至第五回内閣博覽會に兼査部長として、又製鐵事業調査委員長として、其他各種の委員評議員として、又顧問或は囑託として我國の工業に關する事務に轉掌せられた功績も尠くないのであります。

帝國學士院會員としては明治卅九年以來會員に列して現今では第二部長であり、又最近には理化學研究所長の職に就いて本邦科學の發達に貢獻せられたつゝある所尠からず。貴族院議員としては初期以來議席を有して今に至るまで約

三十年、其間國家に貢獻せられたる所亦尠からず。又東亞興業會社創立に際しては時の總理大臣桂公府外務大臣小村伯爵の依頼によつて其社長となり、日支兩國の關係上多大の貢獻をせられ、當時僅かに一百萬圓の資本を以て成立したものが今日見るが如き擴張發展を見るに至つたのも亦君の功績として忘る可からざるものであります。

其他工學會の幹事、副會長、會長としては約三十二年間同會の爲に盡力せられ、又工手學校管理長としては明治卅四年以來約十五年間勤続せられて國家富強の基たる工業及工業の發達並に其要藥たる技術者養成に盡力して來られた功績も亦尠す可からざるものであります。

斯くの如き功績ある古市博士の事でありましたので、宮中に於かせられて此功績を御認めになり、政府當局に於ても勿論之を認められて今回男爵を授けられましたのは、實に喜ばしい事でありまして、國家と共に之を祝せざるべからざる次第と信じます。

我國には元と士農工商と申しました事がありまして、之れに起因したる譯でもありますが、今日迄の處を見るに、士に屬する陸海軍々人を如めとし、法なり、文なり、醫なり、又た商に屬する者までも授爵の恩典に浴せられたる者少からず、然るに獨り工に屬する者のみには未だ其の事なかりしは甚だ遺憾千萬と考へて居りましたが、是は工學なるものが賤學と申す譯でもありますが、又た其の人なき故にもあらざりしならんに、今日迄授爵の事が無かつたのは、實に遺憾とする所でありましたが今回始めて此事がありましたので、殊に古市博士御一人のみ、其後二人までも同じく授爵の恩典に浴せられたる者ありたるに係ら

す、昨年十二月廿六日に於て特に御一人のみ授爵されまし
たのは、博士の御名譽此上なき次第で、これ獨り博士の御
名譽のみならず、又た我が工學界の名譽であつて大に誇と
する所であり、爲めに諸君と共に今日大に祝賀すべき
事であると思ひます。茲に臨み尚ほ申し上げるのは、男爵
には御自愛の上御健康を保たれ、益々國家に御貢獻あらん
事を願ふ次第であります。私は之を以て今日の祝典に於ける
開會の辭に代へ、而して諸君と共に男爵の御健康を祈る
ものであります。

次に工學博士會副選慶演壇に上りて十四學會總代として
左の賀詞を述べ

賀詞

吾が工學界に於て最も尊敬する所の工學博士古市公威君
賜に華族に列せられ勳功に依り男爵を授けらるる前に博士
御一家の光榮名譽たるのみならず我等の學會協會も亦延いて
其榮に沾するを得たり此に於て我等工學に關係ある學會協
會十四團體は本日吉辰を卜し博士を招請し授爵祝賀會を開
き不肖會副選慶團體一同を代表し賀詞を呈するの光榮を有す

博士は我國土木學界に於ける先賢者にして亦其權威たるは
世の周知るところなり加ふるに其學識材幹共に時流に超絶
し衆望自ら隨つ實に全工學界の泰斗と謂ふべし而して博士の
經歷を顧るに常に樞要の地に立ち工學の教育及工業の行政乃
至施設に至るまで殆ど博士の關與せざるはなく關與すれば必
ず誠心誠意之に當り時に身を賭して其實効を果げずんば止
まず其國家に貢獻するところ極めて大なり是を以て朝野の信
頼と共に加はり敬望一世を蓋ふ宜べなり朝廷亦其勳功を認
められ榮爵を授け給ふ

惟よに我國運の隆昌其基つところ多々ありと雖工學工業
の發達は其一大主因なりと斷言するを憚らず然るに世は却て
法律經濟政治軍事の類をのみ重視し久しく工學工業を等閑視
せるの極ありたり近時漸く覺醒して稍其状態を改め殊に歐洲
戰亂の影響に接み漸く之を重要視し來り進んで之が向
上を促がすに至れるは邦家の爲め實に慶賀に堪へざるなり此
時に方り博士の授爵あり我等は此恩命の享方晩かりしを感ず
るものなりと雖而も斯學斯業一層發展の敢として欣慕措く能
はざるどころなり蓋し博士の如き工學界の元勳人格崇高の傑
人を顯彰せしめて將た誰れをか顯彰すべきや

本日此祝賀會の招請を容れ公私多用なる博士の來臨を忝ふ
せしに拘はらず供するに粗澁粗肴を以てするは汗顏の至りに
堪へず幸に我等滿腔の熱誠を敬として半日の歡を盡さるゝ
を得ば我等一同の本懐之に過ぎざるなり

大正九年四月廿四日

- 日本鐵道協會
- 日本船舶協會
- 土木學協會
- 火災保險協會
- 建築師協會
- 造船協會
- 建築師協會
- 工學化學協會
- 帝國鐵道協會
- 電氣學協會
- 電信電話協會
- 機械學協會
- 明學協會

右總代工學博士會副選慶

次に山川男爵演壇に現はれて左の祝辭を讀む

祝辭

東京帝國大學名譽教授工學博士男爵古市公威君舊臘を以て
叙爵の殊遇を授けり茲に其の祝典を舉げらるる前に慶事に堪へ
ざるなり博士元と學識淹博器局富邁其の斯界に竭せる勳業の
如きは既に世人の熟知する所なり今日の慶事ある良に以あり
と謂ふ可し博士老いて益々壯其の齡古稀に垂んとするも尚ほ
學問に非業に拮据淋漓攻々として倦まず何ぞ其盛なるや切に
慕くは益々康寧にして國家の爲に長く獻資する所あらんこと
を讀みて賀辭を陳す

大正九年四月二十四日

東京帝國大學總長理學博士男爵 山川健次郎

續いて寺野東大工學部長、東大工學部職員を代表して左の
祝辭を讀む

祝辭

吾人の最も尊敬する古市先生が此度我國國家に貢獻せられたる
功績に由て特に華族に列せられ男爵を授けられたことは吾人
の欣慕措く能はざる所であり先生が我國工業界の元勳と
して数十年一日の如く斯界に貢獻せられたる偉大なる功績は
風に世人の具瞻する所て今更之を説くを要しませぬ殊に先生
が我が最高學府に在て工業教育の基礎を確立し學術の進歩を
圖り多數有爲の材を養成せられ又或は行政立法の府に於て或
は公私各級の事業に就て常に顯著なる偉績を擧げて居らるゝ
ことは天下周知の事實であり又其名東西に著く其國內
外に治れ上下の重望を負ふこと先生の如くにして何故に今
日まで授爵の恩典に洩れて居なかつたか其怪訝に堪へぬ思ひあり
ましたか今にしてこの事あるは當に到るべき處に到つたかの

觀がありす思ふに身を學界に専し其學識を以て國家に貢獻
し終に皇室の藩屏となつた者は法理醫文の學界に於ては必し
も珍らしくありませぬが獨り工學に關しては由來絶無てあり
ました然るに今や先生が其第一人としての光榮を得られたの
は畢竟我國國家が漸くにして工業の重要なることを認め斯界の
元勳に對して其酬めべきものを酬むられたので吾人工學に志
す者輩恩の優渥なるに感激禁せざる次第であります吾人は今
後先生が益々健康を保たれ我工業の爲社會の爲更に又我皇室
の藩屏として我が天堦無窮の國體の精華を發揚せんことに努
めらるべきことを信じ茲に東京帝國大學工學部職員に代つて
讀て祝詞を呈するのであります

大正九年四月廿四日

寺野精一

次に京都帝國大學教授工學博士田邊朝郎君の左の如き祝辭
演説あり

古市男爵受爵祝賀會に於て

今日は此目出度場所に於て其席末に列するの榮を得ました
に就ては爰に一言の御祝辭を呈し度と存じます

古市男爵の功績に至つては我々の喋々を俟たない世間周知
の事でありますが其功績が又實に比類稀なるものであります
何が故に比類稀なるものであるか工學を基礎としたる工業が
人類に裨益を與へた事は略史あつて以來の驚く可き事績であ
ります

旬日を費したところの京都江戸間の普通の旅行に於てさへ
も日程大井川を越に相當するときは陸橋を据て其安全を祈つ
たものであつた、急行する場合は全く生命掛であつた、其旅行
が今や一夜夢寐かに往來するものが出来る、幾千萬里相隔つて
ある處の間に於ける通信が瞬時に誤なく傳へられ、千萬年の

間無敵に流れて居つた山間の流水が水力電氣となつて人類に燈火動力を興へ、或は空中より肥料を取り、或は腐朽せざる様に多量の食物を保存せしめ、或は鑛物の豊富なる供給を興へ、陸に安全愉快なる住居を作り海に安全迅速なる通路を興へ人類の夢とのみ思ひ居りし空中の飛行を完成し戦時に於ては工學工業の進歩したるものが終極の勝を征することなるは今や説明を致する迄もなき明白な事實であり通信運轉の速にして偉大なる力は人類の知識を傳播するに非常なる効力を有するのである斯の如き廣大なる事業は後世より之を窺ひ見れば其功績の光り輝々して實に目映き迄に光り輝いてあろうと思ふ

平の清盛が相國であらうと源頼朝が六十六國總追捕使であらうと但しは北條氏が執權職であらうとも後世から見れば何の差も少なき事であるが古市男爵を先達として我々の作りつある略史は實に比類稀なる立派なものであります

然るに今や榮爵を受けられた古市男爵が若し他の職務を取つて居られたならば今少しく早く同じ榮爵を得て居られたらうと思はれます

さあ何が故に此驚く可き功績あるに關はらず工學であつたが爲めに榮爵後れたんであらうか之は説明をなす必要がある僅に五十年百年を保つにさへ困難である此肉體の所有者なる我々に於ても飲んだ藥が効を顯はし榮生をした効果も顯はれ來るには幾分の時日を要するのである、まして何千年何万年を繼續する我々人類に於ては功績あるものが感謝さるゝ迄には幾分の時日を要するのである

既今歐米の強國に於て歴然として符の存在することを得て居るのは英國でありますから爰に英國の事を少しを述べて見度と思ふ

既に「エンサイクロペヂヤブリタニカ」を編てジョン・トニーと云ふ姓名を見れば幾多の有名なる大事業を成し就けたる有名なレンニーはナイトとされて居らずして其功績のよき見劣する其子息のレンニーはナイトとされて居るのは何が故であらうか氏は其父の功によつて榮を得たるものにはありませぬ近年榮譽を得易くなつたのであります英國に於てはポスト・エニアス・オノールは殆んど皆無てありませぬ若しあるならば榮氣授關に於けるワット鐵道に於けるスチベンソンの如き何とぞ追及されねばならぬのでありませぬが英國には其事はありませぬが我邦にはあります

グラスゴウ大聖内を流るゝ溪流に因んでロードケルベンとなりしトムソン氏あるが如くランキン先生の如きは工業が其原動力を以てクライド河より流れて世界に廣がつた事を思へば非子孫はヒーヤとなつてロードクライドとても稱せらるであらうがポスト・エニアス・オノールは英國にありませぬ又ランキン先生も今少しく長命であつたなら榮爵を得て居られたらうと思ふ

當時ランキン先生より劣に見劣する他の政治界の人にして榮爵を得た人は甚だ多いのでありますが近頃では英國に於ても相當な事業を成した人々を凡ての方面に於て相應の榮譽を得て居ります

我々共の作りつある略史前に述べた通り其最も驚く可き光輝を發して來たのは最近の壹百年間でありませぬ後世から見れば平家や源氏や北條氏の作つた略史とは其類を異にし人類を測ふ其功績として光り輝くものであるに關はらず其榮譽に浴するとの遅るるは現世に於て不得已自然の勢である然るに今や其光が顯はれ始めて來たのである又我國に於ては有難

き事にはポスト・エニアス・オノールがある故に又父祖の功によつて榮爵を授けらるゝ工學工業家もあるであらうし又死後追賞さるゝ人もあるであらう

斯の如くに論じれば古市男爵御榮爵に浴さるゝこと他の御職務でありしよりも遅延したてはありませぬが此驚く可きヒストリーメーカーの先馳たるに於ては或は他にあつて東の中に混入せられてあるよりも更に大なる御名譽であると信じます

爰に謹て御祝辭を述べます

大正九年四月廿四日

田邊 刺 郎

田邊博士の演説終るや古市博士は徐かに起つて左の如き挨拶を述べられたり

答 辭

昨年九月バーミンガムでシエーム・ワットの百年祭を舉行致しましたが其御佛蘭西のアカデミー・デ・シャンスからラトリー氏を代表者として列席させました其時のラトリー氏の演説を雜誌で見ましたが其中にラトリー氏は斯う云ふ事を云ふて居ります

フランソワ・アラゴが或る日或る英人に向つてワットは實に立派な人物であるが何故に彼を貴族にせぬか由來貴國は貴國の大人物を産養して他國に向つて之を誇る習慣であるのにワットに對する貴國の態度の如きは諷解に苦む所であると問ふた所が其英人の答へて云ふのはイヤ我國ではワットの如き人を貴族にする事は流行らぬ貴族になる人は軍人が然らざれば議院に於ける有力の雄辯家であるとは是に於てアラゴ曰く今に御覧なされ他日シアンヌ・ド・ラ・デストリクシオン(破塚の學術即ち軍人を指したるものと思ふ)がアル・ド・ラ・ペー(中

和の藝術)の前に屈服する日がありませぬ國家の實力を増し一般の福利を進むる事を以て任務とする者が社會から優遇されぬと云ふ事は道理に於ても亦常識から見ても有り得べからざる事であると此事はアラゴの著書の中にある筈で多分アラゴはワットの傳を書いて居りますから其中にある事であらうと思ひますが實はまた私が讀んだ譯でありませぬから確とは申上げられませぬとこでラトリー先生は此アラゴの言を引いて而して後斯う云ふて居る今日はワットの時代とは事情が違ひ貴國に於ては陸海軍人及政治家の功績を決して忘却せられぬいと共に學者技術者等の功績をも屢々旌表して之に酬むる是は我々の政體措かざる所であると斯う云ふて居ります

扱今日私の爲に斯かる盛會を催されました事は之を單に私の過般拜受いたしました恩命に對する祝賀と見ますれば私にとりましては分に過ぎたる事恐縮至極に存じます又先程から諸君の祝辭も私に於ては敢て當らぬ所所謂溢美でありませぬかと思ひます實は私は此御計程の初に當つて御辭退致さうかとも思ひましたのであります、けれども又逡巡して考へて見ますると此會は單に私の拜受いたしました恩命に對してのみと云ふのでなく更に他の意味あるものとする事が出来ると思ひましたので遂に御受けを致した次第でありますので即ち此會は又之を工業に對する一つのマニフェスタシオンとも見る事が出来る所と斯う考へたのであります工業界して祝賀すべきかと云へば固より然りと答へて宜しい工業の興廢は國家の盛衰の分れる所と云ふ事は昔から誰も異議の無い事でありませぬが今日では最早工業の興廢は國家の盛衰どころにはなくして國家の存亡に關すると一般に人が認めるに至りました即ち工業の任務は一層重きを加へました此工業に對して祝賀會を開

くは當然の事であります現に先達ての戦争は工業の戦争だと云ふ程でありまして殊に西洋の某々國では戦工が今度の大战争に勝つたのは全く我々の力であると稱して社會に向つて其地位の向上を要求して居ります軍に斯く申したのみでは尙大に論議すべき點があると思ひますが併し幾分の其理は合せて居るものと存じます又近頃聞く所に據りますと佛蘭西では大战後參謀本部高等司令部軍事參謀官等の組織職權等に就いて研究中であるが其中軍事參謀官に工業界の大家を交へる必要があると云ふ論があります即ち工業は平時のみならず戦時に於ても必要である平時に於ては一般の福利を増進するの具となり戦時に於ては更に又國を護るの機關となるものであると云ふ考が世界一般に起つて來たものと思はれます即ちフランソワ・アラゴの豫言が丁度形を變へて實現して來たのでありき尤もシアンス・ドラ・デストロイクション（破壊の學術）がアール・ド・ラ・ペー（平和の藝術）の前に屈服した譯ではない又シアンス・ドラ・デストロイクションをアール・ド・ラ・ペーの前に屈服させる必要もないが確かに對等の地位に立つて握手するに至つた夫れで宜しいのであります工業が此地位に達したといふ事は實に祝すべき事て此意味に於て私は工業の爲に大に祝ふが宜いと思ひます即ち言ひ換へれば今日の此祝賀會は私の頭の上をツリと通り抜けて遙か上空に鎮座して居る我々の本尊工業なるものに向つて發表されたものと見る事も出来るのであります此意味に於ては私も諸君と共に萬歳を唱へて宜いと思ふので是れ即ち私の此祝賀會の御受けをした次第であるのです

然らば此祝賀を私が受けぬのかと云ふと勿論諸君の御厚意に對して左様な失禮な事はせぬつもりであります即ち工業に

對して發表された諸君の祝賀の御流れば拙者が頂戴するのであります（斯く云ふと拙者が工業を代表して居るかの如く聞えるかも知れませんが私が左様な不埒な事を毛頭持つて居らぬ事は諸君も御諒察下さる事と存じます）是れを私は實に非常な光榮と思ひます故に今日の此會の事は家の記録に存しして永く子孫の記念と致しするつもりであります茲に私は衷心から諸君に感謝致します

古市博士の挨拶了るや加茂正雄博士式務係として奉會不能諸君より寄せられたる祝電と披露せられ是を以て式を終り一同池畔に出て大熊博士の斡旋により記念撮影を爲し兩家となり數談の中濱尾男爵は起つて先づ古市博士が學者としての功績を詳述せられ工部大學と帝國大學との合併當時に於ける難關の圓滿に解決せられたるは博士の學識によるものなりとし理化學研究所亦博士に負ふ所大なるを述べられ更に博士が行政官としての功績の發達ならざるを實して授爵の當然なるを力説せられ杯を舉げ一同を促して自ら吾頭をとり古市博士の高聲を三唱せらる次に九大總長工學博士取野文二君起つて左の如き卓上演説あり

古市博士授爵祝賀式席上に於て

私が古市男爵閣下に始めて御目に觸りましたのは明治十九年と記憶致します其後海外留學を命せられ明治二十二年に歸朝致しまして以來閣下には或は工科大學長として或は學會の長として博覽會の兼務部長として或は種々の調査委員長として三十有餘年間常に御指導を下さりました私は古市博士の講義を講堂に於て聽きました譯ではありませぬが常に御教導に預りまして御講義を受けたも同じ或がするのであります私の同僚でありました故クレスト教師の常に申されされた言葉で

製鐵室にて指導することは Continuous lecture 連續せる講義なりと私は三十年間古市男爵の Continuous lecture を受けたと同様であります隨て博士今回の男爵の御授爵は恰も弟子が其師の立身出生を慕ふの感を以て御祝ひを申上るのであります

博士の御功勞に就ては既に石黒寺野博士又濱尾男爵閣下より十分御陳述になつたこととありますから此上餘足を添ふる事はないのであります先程より御話しが出された事につきましまして思ひ起しすのは八幡製鐵所のこととあります同製鐵所が一時頓挫しましたときに調査委員が出来ました古市博士は委員長として大いに盡力されたのであります此席に當時の委員も御見えに成つて居ります委員の議論は中々の激論で種々困難のこともありましたが古市委員長の御骨折て無事に調査報告が纏つたのであります今回の大战に於て製鐵所は偉大なる功果を挙げましたが其の功績の大部分は古市博士にあると申しましたも過言に非ずと信するのであります、是は唯一委員會のことを申し上げたのであります他の委員會の御功勞も亦同様或はより以上であることは申せもありませんが際限もないこととありますから茲に止めます最後に今回祝賀會の通知書は六字通以上も出て居ることとあります私は幸ひ上京中て本日出席することを得ましたが出席出來ざるものが全國に散在し遂かに此席に祝意を寄せて居ること、存じます

今日は非常の盛會でありますが此席以外に尙數百人數千人御祝ひを申上げて居る人のあると云ふことを御承知になりましたら古市博士に於かせられましても御祝ひのこと、存じます就ては此等の人々の代表と申しさすと甚だ僥倖になりま

が其人々の意志を付度致しまして茲に今日の御喜びを申上ります

眞野博士の演説了つてラマ鐵線株式會社技師谷井鋼三郎氏の祝辭あり古市博士更に起つて鄭重なる感謝の挨拶あり石黒委員長亦會衆に深謝して敬を盡して宴を閉ち古市博士夫妻には再び石黒委員長に送られて自動車にて歸邸會衆も亦薄暮に及んで歌を罷して散會したり